

No.	作品イメージ	アーティスト名	アーティスト名カナ表記	作品名	作品名カナ表記	フロア	設置場所	作品説明	備考
1	 ※作品の一部	鹿児島 睦	カゴシマ マコト	Mi volas paroli	ミ ヴォラス パロリ	B2~4F	館内エスカレーターホール 壁面	館内地下2階~地上4階のエスカレーター横の壁面を舞台にした、道しるべとなる象嵌(ぞうがん)アートタイル作品。水中や陸上の多様な生物が訪れる人々を楽しげに出迎えます。	コーディネート: FACT
2	 ※過去の作品	Soh Souen	ソー・ソウエン	tieCOM.2501(仮)	タイシーオーエム.2501	2F	商業フロア 共用部	証明写真をピクセルに分解し点描の手法で制作されたシリーズ作品です。この作品では、自己(描かれた対象)を他者(小さな色面)の集合体と捉え、無数の抽象的な小さな色面の集合体で構成されており、他者(鑑賞者)が作品と一定の物理的な距離を確保することにより、個々の色彩が結合し対象(証明写真)のイメージが出現します。また、鑑賞者の心理的距離によっても、作品に描かれた対象のイメージは変容します。tieシリーズは、自己(描かれた対象)と他者(鑑賞者)の複雑な関係性について焦点があてられています。	
3	 ※過去の作品	Toyameg	トーマメグ	TENJIN MOSAIC	テンジン モザイク	4F	商業フロア 共用部	天神の交差点で繰り広げられる多様な出会いを描いた作品です。人や動物、そして国籍問わない老若男女が交じり合い、明るく元気な福岡の活気を表現しました。	コーディネート: sponge/ザ・ムース
4	 ※過去の作品	大西 康明	オオニシ ヤスアキ	境の石 天神	サカイノイシ テンジン	4F	商業フロア 共用部	河原の石を銅箔で型取り、空間に配置する作品です。都市の建築の表と裏の境界部分に山や洞窟のようにも見える透過した風景が現れます。	
5	 ©Maki Ohkajima Photo by Serge Koutchinsky	大小島 真木	オオコジマ マキ	《鯨の目》シリーズ ・海の血 / Blood of the sea ・新作1点	《クジラノメ》シリーズ ・ウミノチ / ブラッドオブザシー	6F	SKY LOBBY 共用部	大小島真木の代表作《鯨の目》シリーズの一作。命をめぐる豊穡な世界を巨大な鯨の姿に書き出した本作は、見る人にエネルギーを与えると共に、「地球」という生態系で共に生きるとはどういうことかを考えさせます。	コーディネート: SPIRAL ※2作品 新作の公開日は調整中
6	 ※過去の作品	クニト	クニト	《焼成隕石》シリーズ	《ショウセイインセキ》シリーズ	6F	SKY LOBBY 共用部	宇宙から粘土が落ちてきたら大気圏突入時の温度でやきものになるのでは?という着想から生まれた、スケールの大きな立体作品。遥か彼方の宇宙に思いを馳せる、ダイナミックな視点をお楽しみください。	コーディネート: SPIRAL
7	 ©Kishiro Sumita	Kishiro Sumita	スミタ キシロウ	Behind the street	ビハインド ザ ストリート	6F	ONE FUKUOKA CONFERENCE HALL 入口	一筆で勢いよく描いた線を組み合わせることで制作しました。天神という街が将来に向かってますます発展していく希望を表現するものです。また「グラフィティや書道も、大きく言えばそれぞれ自国の文字を使った表現であることには変わりないが、文字という形態から離れた場合の美しさは言語の壁や世代を超えていけるのではないかと自分は考えています。またこのシリーズではペンやマーカーで「とめ」「はね」「はらい」のような文字の要素を抽出して、それをキャンパスに書き起こす試みを続けています。	
8	 ※過去の作品	湊屋 七代目 利右衛門 志岐浩実	ミナトヤ シチダイメ リエモン シキヒロミ	唯一逸品作り 博多献上組子	ユイツイツピンツクリ ハカタケンジョウクミコ	7F	CIC Fukuoka エントランス	古代五色献上を中国の思想『仁・義・礼・智・信』五常を自然木材の尾州檜の紅と白・朴の緑・黒檀の黒・パープルハートの紫で表現。博多献上柄二種、縦縞文様の一つ親子縞は『親が子供を守る』。もう一つは孝行縞は『子が親を慕う』。中央の菱連続文様は独鈷華血は『煩惱を打ち砕く』を取り入れ。又、博多献上帯は一度結んだら解け難く年を重ねる程馴染み愛されると言い伝えられおり、このプロジェクトに相応しく思い創意工夫させて頂きました。	※2作品

No.	作品イメージ	アーティスト名	アーティスト名カナ表記	作品名	作品名カナ表記	フロア	設置場所	作品説明	備考
9	 ©Chika Shirakawa	白川 千佳	シラカワ チカ	ゆるやかに遊ぶ	ユルヤカニアソブ	7F	CIC Fukuoka フロア内	2つの壁面は空間のテーマである大濠公園でくつろぐ様子と人々が交わり踊る様子を表現し、緩やかな中にも楽しさが溢れる。カラフルなキャラクターは枠にとられない多様性を表し、さまざまな人々が交流する様子を表現している。	コーディネート: Artist Cafe Fukuoka
10	 ©Kiichiro Komiya	小宮 貴一郎	コミヤ キイチロウ	ハチクマと船と街の盆景画	ハチクマトフネトマチノボンケイガ	7F	CIC Fukuoka フロア内	盆栽に似たミニチュア制作の手本として江戸時代に普及した盆景画の様式を借り、この場所に関わる方々へ敬意と期待を込めて制作しました。中央はハチクマという渡り鳥で、ワンビルに寄り添う形で配置をしました。	コーディネート: Artist Cafe Fukuoka
11	 ©Marumiyam	Marumiyam	マルミヤン	CIC FUKUOKA EMAKIMONO	シーアイシー フクオカ エマキモノ	7F	CIC Fukuoka フロア内	過去から未来へと続く流れを絵巻物形式で表現。多様なアイコンが調和して繋がりを、新たな価値が創出される様子を描く。中心の木は新たな命(イノベーション)を象徴していて、地域と世界を繋ぐ役割を表現した。	コーディネート: Artist Cafe Fukuoka
12		仁太郎	ジントロウ	『起点』	『キテン』	7F	CIC Fukuoka フロア内	CICそして、福岡という場所から生まれる独自のエネルギーと、そこから広がる大きな流れを壁いっぱいに描かれた渦で表現しました。	コーディネート: Artist Cafe Fukuoka
13	 ©NORITAKA TATEHANA STUDIO	舘鼻 則孝	タテハナ ノリタカ	-	-	18-19F	ONE FUKUOKA HOTEL 客室内他	福岡・天神の中心地「ONE FUKUOKA HOTEL」のコンセプトキーワード「天神さま」を体現する79点の作品を客室やロビーなどに設置。「装飾品ではなく、ホテルの要素の一部となるアート」を目指して、HOTEL開業にあわせて新規制作。	※79作品
14	-	Studio PARKER	スタジオパーカー	-	-	1F	THE CAFE by ONE FUKUOKA HOTEL	八女の和紙を染めて作ったアートに、折り目を付けて屏風上に凸凹を付けた作品。ビルの外装やコンセプトを連想するようなグリッドと交差を表現。	※2作品
15	 ※過去の作品	Sander Patelski	サンダー・パテルスキー	-	-	1F	THE CAFE by ONE FUKUOKA HOTEL	アムステルダムを拠点とするアーティストによるコミッションワーク。この地にあった福岡ビル、天神コアの外観をモチーフとしたアート。明治通りに面すホテル直営のカフェに展示、この地に愛着を持つ地元の方々にも楽しんでいただけます。	コーディネート: Studio PARKER
16	-	Studio PARKER	スタジオパーカー	-	-	1F	THE CAFE by ONE FUKUOKA HOTEL	福岡・八女の和紙を染色し、ダイナミックに配色したアート。カラーチャートは太宰府天満宮の文献からピックアップ。幾層にもレイヤードされた和紙が、さまざまな色を生み出し、交差する。	※5作品

No.	作品イメージ	アーティスト名	アーティスト名カナ表記	作品名	作品名カナ表記	フロア	設置場所	作品説明	備考
17		Studio PARKER	スタジオパーカー	-	-	1F	ONE FUKUOKA HOTEL エレベーターホール壁面	鉄鋼の街でもある福岡。鉄工所から出た切り板の残材を重ね合わせ、立体的なビルの外観を思わせるアート。立体的な構成の陰影が落とし込まれる。	※4作品
18		Studio PARKER	スタジオパーカー	-	-	18F	ONE FUKUOKA HOTEL ライブラリーラウンジ	旧福岡ビルに居を構え、福岡・九州の住文化を牽引していたインテリアショップNICのゼブラ柄をオマージュ。実際に福ビルの壁に貼ってあった凹凸のあるタイルをスタンプ。	※3作品
19		針金洋介	ハリガネヨウスケ	-	-	18F	ONE FUKUOKA HOTEL 客室前廊下	「西日本一のデラックスビル」と呼ばれた旧福ビルのファサードや内装を記録した、針金洋介氏撮影の写真をギャラリー風に展示します。	※10作品
20	 ※過去の作品	Jinie Park	ジニーパーク	-	-	18F	ONE FUKUOKA HOTEL 客室前廊下	韓国のアーティストJinie Parkの作品を展示。ビルコンセプトから「アジアと福岡の創造交差点」を表現。	※2作品
21		古川吉重	フルカワヨシシゲ	Sound	サウンド	19F	ONE FUKUOKA HOTEL レストラン	福岡出身でNYで晩年を過ごした、福岡を代表するアーティスト、古川吉重のアートを4連で設置。Soundというタイトルのこのアートは、並んでみると、それぞれのアートが音を奏でているバンドのようで、どこかにぎやかですが、心地よさもあり、活気のあるアートです。	
22		矢賀部恭子	やかべきょうこ	-	-	19F	ONE FUKUOKA HOTEL 客室前廊下	八女の和紙を染めて織り込んだ、八女在住のアーティストによる作品。太宰府天満宮の文献からピックアップしたカラーチャートから3色で展開。	※3作品
23		Nicolai Bergmann	ニコライ・バーグマン	Future Bloom	フューチャー ブルーム	1F	北西側広場	天神交差点のランドマークとなる、約12m×約8mの大規模な壁面緑化とアートのコラボレーション作品。福岡や天神にゆかりのある梅の花を、大小さまざまなステンレスでモダンに表現します。	
24	 ©Leandro Erlich Studio	Leandro Erlich	レアンドロ・エルリッヒ	Pixel Tree	ピクセル ツリー	1F	南西側広場	”現実の自然界”と”身の回りに存在するバーチャル”を組み合わせ、現代を象徴する作品です。ピクセル型の葉で構成された”木”を模したアートが、福博で思い通りの入口の広場を彩ります。	コーディネート: ArtTank (小平悦子/近藤俊郎)